

【日本学総合講座公開講演】

総合的日本語教育と認知言語学

森山 新

要 旨

グローバル時代を迎え、日本語教師は言葉だけ教えればよい時代は終わり、文化を含めた総合的な日本語教育が求められている。また文化教育も、単に伝統文化などの知識を教えればよいわけではなく、異文化を読み解く能力（文化リテラシー）を育む教育が求められている。言語習得に対する考え方は、時代と共に行動主義、生得主義、認知主義へと大きく変化してきた。21世紀を迎え、認知主義が台頭しはじめるが、なかでも応用認知言語学は言語教育に有益な示唆を与え始めており、グローバル時代に求められる総合的日本語教育にふさわしい言語観であると言える。

【キーワード】

総合的日本語教育 文化 応用認知言語学 グローバル時代 Usage-based Model

1. 総合的日本語教育

総合的日本語教育という用語が最初に用いられたのは、2001年にソウルにおいて実施された日本語教育国際シンポジウム（主催：日本語教育学会・韓国日本学会）の時である。その後、本学の第3回国際日本学シンポジウムでも「国際日本学との連携による総合的日本語教育」というパネルディスカッションが開催され、それを契機に比較日本学研究中心では「グローバル時代の総合的日本語教育」という研究プロジェクト（代表者：森山新）を行っている（森山 2004）。つまりグローバル時代に求められる日本語教育は総合性が求められるということである。

日本語教師は今や言葉だけ教えればよい時代は終わった。それは日本語教育能力検定試験の出題範囲を見ても一目瞭然である。言葉だけでなく、コミュニケーション能力、文化なども教えなければならない。文化も、祭り、茶道などといった伝統文化を教えるだけでなく、最近では異文化を読み解く能力（文化リテラシー）を教えることも求められている。言わばグローバル時代を生きていくための人間性を教えることすらも日本語教師に求められているわけである。

2. 文化

「文化」の意味は歴史的に変化してきたが、今日では、人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果を指す。そして物質的な成果は文明という用語を使い、文化は精神的な成果を指すのが普通である。さらに動物学者の立場から言えば、文化とはそれぞれの種が「環境に対し適応しながら勝ち取ってきた成果」を指す。ではヒトという種が勝ち取ってきた成果とは何であろうか。ヒトは直立二足歩行をすることにより、生

物的には不利な立場に置かれたが、反面、手が自由になり、道具を使い、作ることができるようになり、身体的能力の拡大を勝ち取った。さらに直立することで大きな頭が支えられるようになり、大脳皮質の発達を促した。その結果、他の生物は感受系と反応系を持ち、それを用いて外的世界と直接的、本能的に対峙するのに対し、人間は感受系と反応系の間には象徴系を持つようになり、象徴系を介して世界を見つめ、象徴系を用いて世界に対するようになった。人間が作り上げた主観的で象徴的な世界が「文化」である。人間は文化の中に住むようになったのである。

このような文化は言語を通じて体系化され、学ばれ、伝承され、共有される。その結果共同主観が形成される。国家が成立すると、国民教育や言語の統一がなされるようになり、文化の共有化はよりいっそう進み、日本であれば「日本の文化」といった比較的均一な国家単位の文化の形成が促進される。しかしグローバル化が進み、ボーダーレスの時代を迎えた今日では、今までのように、国家単位で文化を論じることが難しくなってきた。このような中での文化教育は、多様性への柔軟な理解を促す教育が必要で、知識よりは能力（リテラシー）を育む教育が求められている。

3. 認知言語学

これまでの言語学は往々にして、言語というものを人間とは切り離して考える傾向があった。しかし認知言語学は言語を認知（人間の営み）との関わりの中で見つめている。認知研究は人間性の研究でもあり、認知言語学は人間の経験（文化）を取り込んだ言語観である。それゆえ認知言語学は文化をも取り込んだ「総合的日本語教育」に様々な示唆を与えてくれる。

3.1. これまでの言語理論、言語習得理論、カテゴリー観との比較

認知言語学をこれまでの言語理論、言語習得理論、カテゴリー観と比較すると次のようになる。

① 言語理論

「構造主義」では言語を、人間を排除して客観的に見つめようとしていたが、「認知主義」では人間との関わりの中で言語を見つめようとしている。

② 言語習得理論

「行動主義」の下では人間を動物と同一視する傾向があり、言語習得も「刺激と反応の連合」として説明しようとした。続く「生得主義」の時代には、人間の頭脳をコンピュータのメタファーでとらえ、生得的に埋め込まれた「言語習得装置（普遍文法）」を仮定して説明を試みた。これに対し「認知主義」は言語習得などの言語活動を、「人間の営み」としての認知活動の一つと考えており、そこには人間の文化の全てが含まれる。

③ カテゴリー観

後述するように言語は人間が脳内に形成するカテゴリーに貼られたラベルである。「古典のカテゴリー観」ではカテゴリーは意味素性により客観的に決められると考えるが、認知主義では「プロトタイプカテゴリー観」を受け入れ、カテゴリーとは人間が同じ意味を付与し、同じラベルで呼び合うものの集まりであり、人間が認知能力によって主観的に作り上げるものであると考えている。

3.2. 認知言語学と日本語教育

次に文化や言語習得など、日本語教育と関連した認知言語学の特徴をいくつか紹介する。

① 百科事典的意味観（フレーム）

従来、意味は言語が持っているもの（属性）と考えられてきた。そして意味とは「辞書的意味」を指すことが多かった。しかし認知言語学では、言語の意味には辞書的意味だけではなく、人間が経験する全てが含まれる。例えば「mother」という語の意味は、単に「女性（female）」の「親（parent）」を意味するだけではなく、自分を産み、おむつを取り替え、やさしく抱き、乳を与える、最も身近な存在、といった日常の経験から得られる全ての経験が一つのカプセル（スキーマ）として含まれている。このような意味を「百科事典的意味」という。

当然のことながら、このように経験に根ざした百科事典的意味は個人により、育った環境により異なり、また文化が反映する。そしてそのような意味は言語によって受け継がれ、共有されるため、言語が異なると、

ラベルや辞書の意味は同じでも、背景の百科事典的意味がまるで異なることがある。例えば「猫」は日本語でも他の言語でも、ある哺乳類を指すという点では同じであるが、その背景にある百科事典的意味はかなり異なっている。日本では、「猫」は犬と並んで人間のペットとして飼われ、身近に存在する動物、時には甘えて人間にかわいがられるが、犬とは異なり怠け者であったりずるがしこい動物であったりする。これに対し韓国ではペットとして飼われることは少なく、決して身近な存在とは言えない。したがって日本では『我輩は猫である』という小説は、人間の身近に生活するアングル（視点）から人間の生活模様を風刺的に描き出した小説となるが、韓国では、そういったアングルにはなりえない。むしろそのようなアングルは、ラベルは異なるが、「ハエ」のほうが近いかも知れず、実際に韓国ではかつて、ハエの視点から人間の生活模様を描いた小説があったという。

また日本では電車の中で携帯電話に関するマナーが厳しいが、韓国ではそうではない。これは携帯電話がうるさいと思った時に発する「ちょっとうるさいのですが」といった表現（ラベル）は同じでも、その背景的な意味が日韓の間で異なることによる。日本であれば普通、このような発言の背後には、相当程度我慢した挙句、我慢が限界を越えた時に発せられる言葉であり、喧嘩の一步寸前であるということの意味することが多い。したがって、こうした発言の行使は極力避けなければならない、そのためには予め「携帯は使わないようにしましょう」というルールが必要になる。これに対し、韓国では、普通、そのようなことは少なく、「ちょっとうるさいのですが」といった発言は、ある意味で相手との交渉の始まりであり、我慢の限界、喧嘩寸前ということではない。したがってうるさければその場その場で交渉し、交渉の結果、携帯を使うのをやめることもあれば、相手の事情を理解し携帯をそのまま使うこともありうるのであり、「携帯を使わない」という事前のルールはさほど必要ではなくなる。「ちょっとうるさいのですが」の記号としての意味（辞書的意味）は同じでも、その背景にあるスクリプト（百科辞典的意味）が異なるのである。

また日本人は前日に親しくなった友達でも、翌日になると始めは敬語で話しかけたり、ある一定の距離を置いて接し始めたりする。すると韓国からの留学生などは、昨日親しくなったはずなのに、なぜこんなに距離を置くのかと、昨日の親しげな態度は偽りであったのかと疑ったり、日本人と親しくなるのが難しいと感じてしまったりすることがある。これもある意味では

「敬語使用」や「距離」といったラベル（記号）は同じでも、その背景の意味が全く異なるということである。韓国では、一旦親しくなれば翌日も前日の親密な距離感を持続する傾向があるが、日本では、別の日に会う際には、最初はまたある程度の距離を置くのが普通なのである。そのことを理解しないと、韓国の留学生には日本人の態度が冷たく感じられ、一方の日本人には韓国の留学生の態度が礼儀知らずで性急なものに見えてしまう。

② プロトタイプカテゴリー観

認知言語学ではプロトタイプカテゴリー観を採用し、カテゴリーは人間が経験の中で同じ意味を付与した成員によって形成されると考える。またカテゴリーは日常の経験により、典型的な成員（プロトタイプ）とそうではない周辺の成員が存在する。

そのため、人により、集団により、プロトタイプが異なったり、カテゴリーの範囲が異なったりする可能性がある。例えば同じ「友だち」という概念であっても、典型的な友だち観（どのように付き合い、どの程度深く交わり、どの程度まで依存してもよいかなど）が異なる。その結果、友人関係で求めるものが異なり、「友だちなのに冷たい」「友だちといってもそこまでは…」といった誤解が生じる。

また異文化理解ではステレオタイプを持つことは避けるべきことであるが、ステレオタイプとは事物全てをプロトタイプで判断してしまうことである。人間の認知はプロトタイプをもってカテゴリー全体を特徴づける傾向があること、カテゴリー成員は全てが均一ではなく、プロトタイプ成員とともに、例外的、周辺の成員も存在するのが当然であることを理解するようになれば、ステレオタイプ（プロトタイプ）で全ての物事を見つめることはなくなる。例えば、日本人には典型的な日本人とそうでない日本人が存在することが容易に理解できるようになり、古典的カテゴリー観のように全てを均一の成員からなると誤解することは少なくなる。

③ 解釈の仕方と言語の種類

客観的な外的世界をどのように解釈するか、どのように意味づけ、切り分けて、カテゴリー化するかは言語や文化の種類を形成し、いく通りもの可能性があり、言語はその一つを選択して慣習化している。その結果言語により慣習化の仕方が異なる。

例えば日本語は言語類型論的に主観的把握型の言語であり、客観的把握型の言語である英語とは対極をなす。それが授受動詞、受身（ヴォイス）、経験的動作などの表現のしかたに相違をもたらしている（森山

2006）。こうした言語類型への理解は言語転移を少なくし、言語に対する概念変化を促し、第二言語習得を助けるであろう。

また文化によって、語彙体系の切り分け方に違いが生まれる。稲作を営み、米を主食とする日本では、米に「稲・米・ご飯」といった下位カテゴリーが存在するが、米を主食としない英米では「rice」一語でことが足りる。その一方で肉食の文化圏では肉に「beef・pork・chicken」といった下位カテゴリーを持つが、日本語では、どれも「肉（牛肉・豚肉・鶏肉）」である。血縁関係が重視される韓国では、親族関係を表す用語が非常に豊かである。言語はこのように文化によっても多様性を示すが、このような言語の多様性も、文化の違いを意味に含みこんでいる認知言語学的言語観では容易に理解が可能である。

④ 言語習得観

最近、認知言語学は「応用認知言語学」を提示し、言語習得の分野に有意義な示唆を与えている。ラネカー（Langacker）は「Usage-based Model（使用基盤モデル）」を提唱し、言語の習得は、①生得的言語能力より言語使用が重要であること、②トップダウンではなくボトムアップのプロセスで進むこと、③規則（文法・統語）の習得が中心ではなく、語彙などの用例の習得が中心であること、④文法の習得は語彙などの用例を習得する中でパターンを見出し、抽出されたものであること、などを提示し、生成文法の問題点に代案を示している。

またトマセロ（Tomasello）は様々な実験を行い「動詞の島仮説」を提示し、ラネカーのモデルの正当性を実証的に示している。これらは言語習得・言語教育に有意義な示唆を与えている。

4. 総合的日本語教育へ

2001年に「総合的日本語教育」という用語を初めて用いた李は、李（2004）の中で「総合的」という用語について具体的に言及し、

- ① 技能の総合化（言語4技能の総合的教育）
- ② 認知的総合化（体験型学習）
- ③ 知的総合化（日本学の学際的連携）

を挙げている。総合的日本語教育は言語と共に文化を取り入れ、日本学全般が連携することによってはじめて成り立つが、認知言語学は人間の営み全般を射程におさめ、言語と文化を区別しないため、多言語多文化社会に求められる総合的日本語教育を支えるにふさわしい言語観であると言えるだろう。

参考文献

李徳奉（2004）「韓国における総合的日本語教育と日本学の連携事情」『第5回国際日本学シンポジウム報告書』お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

森山新（2004）「国際日本学との連携による総合的日本語教

育」『第5回国際日本学シンポジウム報告書』お茶の水女子大学大学院人間文化研究科、29-31.

森山新（2006）「応用言語学的な日本語教育の試み」『2006 JCLA Conference Handbook』日本認知言語学会、56-59.

もりやま しん／お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 国際日本学専攻・助教授
moriyama.shin@ocha.ac.jp